

子育て通信

ポラン



第125号 平成29年5月26日発行
355-0361
埼玉県比企郡ときがわ町桃木452
子育て支援センター“ときがわ”
はなぞの保育園内
電話—493(65)2655

ホームページもご覧ください

巻頭文



ここ（園）は別天地

一人の男の子がとことこやってきて、私にお花の蕾をくれた。男の子は何を言うでもなく、また、とことこ歩いて向こうへ行ってしまった。私は不思議な気持ちに襲われた。なんだろう、この気持ちは...？ 野原の真ん中に立っていると、空からお花の蕾（つぼみ）がふってきて、それを手のひらにいただいたような...。とても人間業（わざ）とは思われないような...

「わあーっ」と奇声を発しながら、3歳の子が数人で廊下を行ったり来たりしている。園では日常の光景で、誰もおかしいとは思わない。これが学校だったらどうだろう。会社だったらどうだろう。注意だけでは済まないかも。病院に連れて行かれ兼ねないかも。

そうだ、ここ（園）は別天地なのだ。私たち大人の方こそ、この別天地から追われないように気をつけなくっちゃ。

柳瀬寛洲

6月の予定

月	火	水	木	金	土
			1 開放・相談	2 ポランひろば (小麦粉粘土)	3 開放・相談
5 開放・相談	6 どんぐり クラス (建具会館)	7 開放・相談 ほのぼの カンガルー	8 開放・相談	9 ポランひろば (おはなし会 おやつ試食)	10 開放・相談
12 開放・相談	13 ぐりクラス (玉川公民館)	14 開放・相談 ほのぼの カンガルー	15 子育て講演会 『野から支える、 子どもの育ち』 (小西貴士先生)	16 ポランひろば (音あそび)	17 開放・相談
19 開放・相談	20 ぐらクラス (せせらぎホール)	21 開放・相談 ほのぼの カンガルー	22 開放・相談	23 ポランひろば (川あそび)	24 開放・相談
26 開放・相談	27 開放・相談	28 開放・相談 ほのぼの カンガルー	29 開放・相談	30 ポランひろば (七夕飾り)	

子育て講演会

『野から支える、
子どもの育ち』

小西貴士先生

6月15日(木)
10時~11時半
(受付9時45分)

参加費 200円

事前申し込み
好評受付中!

ぜひご参加を!





本をどうぞ



まついのりこ
借成社



じゃあじゃあびりびり

子どもたちの身近にあるもの、動物、乗り物・・・
それをイメージすると、聞こえてくる擬音。
ページをめくると、次から次に「ぶーぶーぶー」「じゃあじゃあじゃあ」
「かんかんかん」・・・お気に入りのページができると、
もういっかいのアンコール。なんど読んでもたのしいですよ。手のひら
サイズでめくりやすく、ブックスタートにおすすめの絵本です。
我が家でも大活躍でした。

子育て支援センター担当

仲野陽子

支援センターのひとこま

～伝説のきんかぶとと野いちご摘み～

月曜さんぽの行き先は、前の週のポランひろばで決めています。
前回参加したおかあさんたちは、「野いちごを摘むことができて楽しかった～」といい、
では、次回も行ってみましょうよということになりました。「野いちごによく似た『へびいちご』は食
べられないんだよ。」「どこがちがうの?」「うーん違うんだよなあ・・・見れば分かる!」
当日、気になったおかあさんたちは、やってきました。
なかなかはじめは見つけられませんでした。ありました!野いちご!
そして足元には『へびいちご』も。
違いがわかって見つけることができるようになると、不思議なものですねえ。次々に野いちごが目に入
ってくるのです。「あった!」「ここにも!」
はじめは「食べてごらんよ。」と差し出された赤い野いちごを、じーっと眺めてなかなか手を伸ばさ
なかったお友だちも、食べてみたらあれ?甘くておいしい物だ! わかったとたん、ママがとってくれる
のも待ちきれないほどのスピードでほおぼっていました。
途中立ち止まっては、思い思いの興味あるものに触れつつ山に沿った道を歩いて、池につきました。
『伝説のきんかぶと』と園児たちの間で噂の大きな金色の鯉が、仲間の鯉とゆったり泳ぐ姿も見るこ
うことができました。

わらべうた



♪ おんまさんの、おけいこ



おんまさん の、おけいこ、いちにて さん。

編集後記



☆赤ちゃんには・・・

親子で向きあってお膝にのせてゆらします。
いちにてさん! どうたってお膝で持ち上げると、
赤ちゃんは高い位置になり笑顔になります。



☆大きい子には・・・

前向きにお膝に乗せゆらします。いちにてさん! で
お膝を高くすると、ほら滑り台みたい! す〜と滑り
おりてみましょう。

または、いちにてさん! で乗せていた足を開いたら、
どし〜ん! 落ちこちた〜と笑顔になりますよ。

春は、大好きな季節の一つです。
芽吹いた木々が緑濃くなっていく
さまもほんとうにすてきです。

何といても、春の野山の恵み
(おいしいもの) が目にはいつてくる
ので、いつもわくわくするのです。

散歩先で発見する幼い頃の体験は
いつまでも忘れませんよ。

きつと!

五十嵐民江